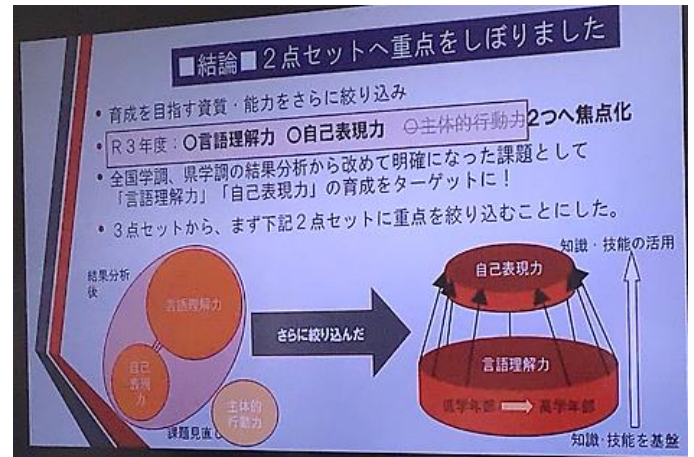


大分教育事務所訪問②-27 (計100) 臼杵市立佐志生小学校に学ぶ2

学校経営から学ぶ

『『わかる』『つたえる』『ひろげる』佐志生っ子の育成』を目指し、「学校評価の4点セット」のそれぞれの取組について、教務主任を中心に教職員等の実施率と取組状況、子どもの達成状況と検証を一か月程度で行うことで、実効性のある検証・改善サイクルへと改善されています。



注目すべきは、学校をあげて育成を目指す（教科横断的な）資質・能力について全職員で協議を行い、「言語理解力」「自己表現力」と絞り込み、さらにこの2つの資質・能力は連動しながら育成されることを、学校で定義をしたことです。このように、目標の共通理解がすすめば、具体的

な取組は担当者や児童会にも任せることができ、当事者意識が高まると思いました。

そのような資質・能力について、保護者や地域の方とも熟議等を行うことで、本校の達成指標でもある「体験を通じた地域のことを考える学習は楽しい」の質がより向上されると思いました。（1学期学校評価アンケート（児童） 「地域の人と勉強をするのは楽しい」100%）

授業から学ぶ

学校をあげて育成を目指す（教科横断的な）資質・能力が明確になったことで、それぞれの授業において、学び合いの場を設け「言語理解力」や「自己表現力」を意識した授業が行われつつあります。

今後は、指導案の「めあて」については、本時で目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの



NO.442 2021年10月 臼杵市立佐志生小学校

比較する

自分の考えと共通する所と、違う所はどこだろうか。同じ考えでも、自分だったらどのように表現するかな。



NO.443 2021年10月 臼杵市立佐志生小学校

対話する

歌詞にある思い。作曲者の願い。楽譜と対話することで、表現の仕方も変わってくる。

道筋」となることを確認したり、「振り返り」は教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」で表してみたりしてはいかががでしょうか。そして、互見授業等で教師が考えた「振り返り」と子どもとの違いや、「めあて」との連動、評価規準との整合性について協議することで、授業改善がより推進されると思いました。